

製造業のビジネスチャンスが見える
モノづくり最新情報サイト
じゃぱんお宝にゅ〜す
https://japan.otakaranews.com

じゃぱんお宝にゅ〜す

モノづくり現場の未来を見つめる
製造業応援サイト
じゃぱんお宝WEB新聞
最新情報満載！好評配信中！



脱酸素社会の実現に向け 3社が共同で試験航行

バイオディーゼル燃料を使用したばら積み 貨物輸送船「SUNRISE SERENITY」試験航行

海上輸送でも 脱炭素化加速

日本郵船株式会社(日本郵船)、日本郵船グループの旭海運株式会社(旭海運)、株式会社神戸製鋼所(神戸製鋼所)の3社は7月28日、神戸港(兵庫県)でばら積み船にShip-toShip方式※1でバイオディーゼル燃料※2(バイオ燃料)を供給した。

旭海運が運航・管理をし、日本郵船と共同保有をする神戸製鋼所向けの貨物輸送船「SUNRISE SERENITY」(サンライズ・セレニティ)が、豊田通商マリンフューエルの協力によりバイオ燃料の供給を受け、オーストラリアのニューキャッスル港までの航路で使

GHC排出量削減し 持続可能な社会へ

今回の試験航行は、「2050年まで

のネット・ゼロエミッション達成」を外航海運事業における温室効果ガス(GHG)排出量削減の長期目標に掲げる「日本郵船」、サプライチェーンにおける海上輸送での脱炭素化を目指す「旭海運」、低炭素・循環型社会への取り組みを統合的に進めていくことで持続可能な社会を目指す「神戸製鋼所」の3社が共同で取り組んだもので、関西・瀬戸内エリアにおけるバイオ燃料サプライチェーンの普及に寄与する。

注目浴びるバイオ燃料 船用エンジンに使用可能

バイオ燃料は、生物由来の有機性資源(バイオマス)を原料にする燃料で、燃焼時の二酸化炭素(CO₂)排出量は実質ゼロとみなされる※3。

船舶から排出されるCO₂削減の要請が高まる中、バイオ燃料は現在一般的な重油用の船用エンジンでも使用可能なものとして注目されている。

今後、この試験航行で得られた知見

を日本郵船、旭海運、神戸製鋼所の3社で共有し、脱炭素化に向けた取り組みを推進していく。

ばら積み貨物輸送船 SUNRISE SERENITY

今回、バイオディーゼル燃料の給油を行い、試験航行を実施したばら積み貨物輸送船は次の通り。

■SUNRISE SERENITY概要

- ◇全長：224.94メートル
- ◇全幅：32.26メートル
- ◇総トン数：39,760トン
- ◇載貨重量トン数：76,544トン
- ◇建造年：2010年
- ◇造船所：新笠戸ドック

CO₂ 排出量削減に 取組む各社の概要

■日本郵船株式会社

- ◇本社：東京都千代田区
- ◇代表者：代表取締役社長 曾我 貴也
- ◇ウェブサイト
https://www.nyk.com/

■旭海運株式会社

- ◇本社：東京都港区
- ◇代表者：代表取締役社長 根元 聡
- ◇ウェブサイト
https://asahiline.co.jp/

■株式会社神戸製鋼所

- ◇本社：兵庫県神戸市
- ◇代表者：代表取締役社長 山口 貢
- ◇ウェブサイト
https://www.kobelco.co.jp/

■用語の補足

◇※1：Ship-to-Ship方式
岸壁・栈橋に係留中の船舶、もしくは錨泊(びょうはく)中の船舶に燃料供給船が横付けして燃料を供給する方法。

◇※2：バイオディーゼル燃料
植物油のメチルエステル化によって精製された燃料で、石油由来の重油や軽油の代替燃料として期待されている。

◇※3：バイオ燃料は燃焼時に二酸化炭素(CO₂)を排出するが、原料となる植物はCO₂を吸収してバイオマスを再生産するため、直接燃焼におけるCO₂排出量は実質ゼロとみなされる。
「カーボンニュートラル」を実現する化石燃料の代替物として注目されている。

- 写真左は、位置関係図(©OpenStreetMap)
- 写真右は、バイオディーゼル燃料の補給の様子

(※資料提供：神戸製鋼所)

